



# ハクトウワシ

まえかわたかゆき  
前川貴行作

しん にほんしゅっぱんしゃ  
新日本出版社

アメリカのシンボルでありながら、絶滅の危機に瀕していたハクトウワシ。書獣として狩られ、農薬汚染の影響でヒナがかえらなくなったことが、主な原因だった。

そのハクトウワシの巣が、北大西洋の荒海にそびえ立つ断崖上にあつた。枯れ枝や草を集めて作られた巣のなかで、つがいのワシが交代で卵を温

めている。強風に吹かれ、冷たい雨に打たれ、体に雪が降り積もつても、温めつづけている。

過酷な環境を生き抜くハクトウワシを貴重な写真でのぞき見る。

